

地域コミュニティ組織・モデル地区報告会 「モデル地区への質疑応答」

1 山島地区

質問事項		回答
1	9団体の参加が遅れた理由は何か。どのような団体か。	コミュニティ設立準備会発足の後、コミュニティ組織設立時の想定団体を選んだため。組織の4つの重要な役割に関係する団体。
2	・構成団体ごとに理解度が違っているとされるが、全体の考え方の共有はどのように取り組んでいるのか。 ・各種団体にどのように賛同を求めたか。	あるべき姿や組織論をするととまり難いので、それぞれの団体に関係する具体的な内容を説明し理解を求めた。
3	団体が増えて困らないか。	事業を実施する時に協力団体が増えればよい。
4	山島地区の振興会組織はどうなったのか。	以前あったが解散して、現在は無い。
5	地区内の各種団体の上部に市や県の団体があり、その団体との調整はどのようにするのか。	コミュニティ組織を立ち上げて、それぞれの団体の上部組織のつながりに変化はないと思っている。
6	役員となる各団体長の任期は何年ほどか。1、2年の交代では組織として続きにくいと思える。	実施する事業が固まっていて、その組織の関りが決まっていれば問題ないと思う。
7	若い世代や女性の参画に対して、具体策や工夫していることは。今まで活動に参加していない人たちをどのように増やしていくのか。	コミュニティ組織に入る青年部、PTA、子供会、こども園保護者会の会員の皆さんに事業ごとに参画を促そうと考えている。
8	美しいまちづくり運動とは、具体的にどのようなことか。	環境美化活動で、公民館、体育館、こども園、ふれ愛広場、山島台公園（4ヶ所）等の草刈、窓ふき、剪定作業の実施。
9	今後の人口減少対策は。	コミュニティ組織でできることは、活動を通じて魅力ある「ふるさと」を創り、子供たちが地区にずっと住み続けたいと思う地域づくりをすることと思う。
10	新町と旧町の関わりをどのようにしているのか。	旧町の人達が草刈り機を持ち寄り、山島台の草刈りをし、山島台の人達が草を集める共同作業で交流を図るなど。

2 館畑地区

質問事項	回答
1 学識経験者とは地区内の方か、地区外の方か。	地区内有識者を指している。訂正する。
2 ・町内会長や他役員の任期について、どのように対応していくのか。 ・会長等の任期はどのように考えているのか。	町内会長は、現在1年交代です。準備会役員は規定で「組織設立まで・・・」とあり、次年度以降の町内会長等は新たに委員として入ってもらうことにしています。
3 ・構成団体や役員の選出に当たりどのような苦労があったのか ・コミュニティ不要論はなかったか。	取り組み自体の内容や方向性等がはっきりしていない中での依頼なので、理解されにくかった。
4 地域バランスを取るのに苦労した点は。	新興の町会等は実態がつかめず、適任を探すのが難しい。
5 組織設立の時期が令和4年4月と遅いのはなぜか。	市の目標時期に合わせた。
6 じょんがらの他に地域の活性化・融和を図る具体的な対策・事業はあるか。 新興住宅との交流方法は。	旧町会と新興町会の融和策を最初の対策と考える。まずは各町会に知ってもらい、顔を見える活動を模索したい。
7 地域芸能を新興団地に伝えるためにどのように取り組んでいるのか。	イベント開催、広報、地区内の小学校と連携。
8 若者や女性の参画方法は。(既存団体は年配者が多いと思われる。)	それぞれの立場にあった分野で参画してもらうよう、活動内容を細分化し、協力要請する。
9 現在の町内会、公民館で行っている行事、事業等との違いをどのように考えているのか。	当地域は公民館が主体的に地区事業を行っている。各種団体と連携していく。
10 公民館に頼り過ぎずにやっていけるか。	公民館と一体的に進める。

3 石川地区

質問事項		回答
1	今後の体制はどうか。（令和2年度の町会長は？）	現在、中心となる令和2年度町会長が役員として入っていますので、常に新しい人材登用が見込まれます。
2	役員の交代・任期、引き継ぎは。	まちづくり協議会設立準備会の任期は、設立までとなっております。
3	地区振興会の協力はどうか。	地区振興会とまちづくり協議会との活動が異なります。
4	各種団体の関心が低いため、事務局に公民館が入った場合、館長の仕事量が増大する恐れが多分にあると思う。	今まではコミュニケーション方法を変えていきます。現在、まちづくり協議会の連絡網はLINEグループを活用し、資料と写真を添付して活動報告を送っています。石川地区各種団体は、いままでどおりの活動ですので、今後の地区を作り上げるには新しい方法、システムを考え、仕事量的な考えではなく、これからの地区、まちづくりをどう考えるかによると思います。
5	ホームページは外部に依頼しているのか。	自分たちで、内容を精査し製作しております。
6	ホームページは誰に何を発信するのか。	作成するところから参画してもらって地区を知る、学ぶところから地区に関心ある方々を増やす広報活動です。この時代のSNSの情報発信を考えてほしいです。
7	ホームページやSNSの作成に若い人をどうやって参画させたのか。	若い人たちは、面白い、関心のあるところから始めてます。
8	旧集落と新団地との融合をどのように図るのか。	新旧と意識があるのは年配者の考えで、50歳未満の方はその意識がなかったので意識のない方の意見を聞きます。
9	今、一番苦勞していることは何か。	各種団体、地区関係者の意識です。
10	話し合いで出た問題点の具体的な内容は。	より良いまちづくり、ふるさとづくり、安心安全なまちづくり、これからの理想とする石川地区にするには、前向きな意識から、たとえば一例として地区にスーパーがなくなったので高齢者の生活はどうか、免許返納したらどう生活するのか等々がありました。また、子どもたちや妊婦、障害者、外国人の生活はどうか、我々が行動すべきことはあります。

4 千代野地区

質問事項		回答
1	既存団体との関係整理の考えはあるのか。	既存の団体の活動は基本的には従来通り取り組んでいただき、まずは意見交換し情報を共有する場として、新しい組織を位置づけたい。その上で、既存の団体と連携、協力して、可能であれば、従来の地域活動の隙間を補完するような活動から取り組んでいく考えです。
2	構成団体が非常に多いがどのようにまとめるのか。	高齢化による担い手不足など共通の課題があることと目的が近い団体も多いことから、共通の課題解決を図る取組や目的が一致する団体による協働の活動を進めることにより、まとまりを確保したい。また、設立当初は、すべての団体（20団体）から役員を出し、各団体の窓口の役割を果たしていただくことにより情報の共有を図っていくこととしている。
3	連合会長退任後もまちづくり協議会の会長を継続するのか。	コミュニティ組織会長は、町内会連合会長経験者に限らず、若い人を含め広く会員の中から適任者を選ぶべきと考えています。また、連合会長とコミュニティ会長は兼任しないようにする方針です。
4	公民館との関係整理は方向性として見えているのか。 公民館と各種団体との関係をどのように考えているのか。	コミュニティセンター化を視野に入れながらも現段階では、公民館をコミュニティ組織と連携する組織とし、公民館の重要な役割である社会教育、生涯学習の場としての位置付けを守りながら、公民館事業と各種団体や地域として自分たちでできる事業を整理していくべきと考えます。
5	どういう活動に重点を置こうとしているのか。	新しい生活様式の中、事業には配慮が必要です。まずは、たくさんの皆さんに集ってもらわない事業で、若い人や、女性にプロジェクトへの参加を期待できることを重視しています。
6	人材発掘プロジェクトのアンケート内容はどのようなものを想定しているか。内容は誰が考えるのか。	女性や若い世代がどんなものに関心があり、取り組んでみたくなるのかを調査したいと考えています。また、組織名称もアンケートの意見を参考にしたい考えです。アンケート内容は会長を中心に事務局で原案を作成する予定です。

質問事項		回答
7	新規事業の検討とは、具体的にどのようなことを想定しているのか。	女性や若い方たち自身が参加しやすい、参加したくなる事業を検討するというプロジェクトそのものも事業の一つと考えます。具体的事業はまだ想定していません。
8	見直した既存事業とはどのような事業か。	見直しはプロジェクトが発足してから行います。従来から各種団体で実施している事業について、内容や運営方法など、他の団体との協力や統廃合などを含めて検討していきたい考えです。
9	高齢化率がやや高いように見える中で若年層や女性の参加促進対策は何か。 新興団地として同じような年代の方が多と思われるが、世代間、特に若い世代との意識の隔たりをどう埋めるかが苦労される点ではないか。	プロジェクトの中心を若い方や女性に任せていく必要があり、コミュニティ組織とその事務局がそれをバックアップしていかななくてはいけないと思います。 コミュニティ組織役員等の子どもで地区在住の者、PTA、子ども会などから人材発掘したいと考えています。また、意識の隔たりはSNS等の活用で埋めていきたい。
10	豊岡市のホームページのどのような部分が参考になりましたか。	29地区の組織や規約が全て掲載されており、共通の考え方や地区の特徴を踏まえた独自の工夫について知ることができ、組織や規約の検討に大変参考になりました。
11	千代野将来ビジョンとは具体的にどのようなものか。 また、活用（案）や目玉はあるか。	千代野将来ビジョンは「住みやすいまち、住み続けたいまち」の理念のもと①「安全安心に暮らせるまち」②「地域活動・趣味・子育て等に必要な施設が整ったまち」③「地域コミュニティが根付いたまち」の3つの柱を立て、ビジョン実現に向けた様々な取組を提案しています。 現時点で大きく活用できた点として、ビジョンの推進体制として提案していた「将来ビジョン推進委員会」が事務局として、「各種団体連絡協議会」が設立準備会並びに新コミュニティ組織として、無理なく位置付けられたことが挙げられます。 また、ビジョンに掲げた取組のうち、防災体制の整備や高齢者や子どもの見守り体制の整備、行事等の見直しなどは新コミュニティ組織の活動の目玉になると考えています。

5 蝶屋地区

質問事項		回答
1	既存団体との連携はどうか。	地区振興協議会がないので、これまで、地区の既存の主要団体とは、公民館が活動を通じ共催行事などで個別に関係を持ってきた。今回のまちづくり活動によって説明会を通じて団体同士の情報の共有化ができ、モデル地区に申請する事にも主要団体の了承が得られた。今後はまちづくり活動によって地区内団体の横の結びつきを強め、地区全体で連携を強めていきたい。
2	事務局としての公民館の関わりは。	設立準備会に関しては、検討会が区長会、社協、老人会、公民館が中心だったのでその経緯で現在は公民館長が事務局を行っている。公民館は地区での印刷などの事務処理ができる施設であり、区長会や地区の主要団体が進めるまちづくり活動には協力すべきと考えている。まちづくり組織の設立後の事務局は公民館だけでなく区長会など地区団体からも人員参加を求め進めていく予定。
3	まちづくり組織と公民館との連携をどのように強化するのか。	公民館職員は館長、主事、事務員の3名と少ないが、これまで公民館協力員の支援を受けながら地区のほとんどの行事を進めてきた。協力員は1年任期の方が多く、仕事の都合もあり定常的に公民館活動には参加できないのが現実で、このため地区の各団体から多くの支援をいただき、事業を進めているのが現状である。 少子高齢化が進むなか支援各団体も高齢化と会員不足が続いており今後さらに人手不足が深刻になると予想される。各団体の活動の縮小が目立つ中、公民館自身の活動も今後ますます地区全体の協力が必要になり、これまで公民館に関心の少なかった若手住民の協力も必要になってくる。このため今後”まちづくり活動”を通じて、公民館と各団体がお互いの課題を解決するような体制をとることで連携を強化していく。
4	公民館が事務局になっていることについて、問題点はあるか。	現在設立準備会の事務を進めているが、準備会の段階でも事務局の業務はかなり多く、通常の公民館活動を行いつつ、まちづくりの業務をするには公民館職員だけでは負担が大きく公民館活動に支障がある。

質問事項		回答
5	旧集落と新興団地との融合をどのように図るか。 新旧住民の温度差はどのような状況か。	現状は夏祭りや年6回のスポーツ大会、その他の公民館事業、また地区社協の年6回の町会懇談会、各町の福祉協力員の研修活動、地区ボランティア団体の桜祭りなどを通じて新旧の住民交流と融合を図っている。ただ企画の段階での新興団地住民の関与が少なく参加率も低め。今後はこれらの事業を継続しながら、新しく防災等の共通課題を含め、新興団地の意見が反映されるような企画をまちづくり活動を通じて進め、さらなる融合を図りたい。
6	若者、女性の参加が難しい理由は。	蝶屋地区は青年団や婦人会という、継続的に活動している若者と女性の集まる活動団体がなく、このため彼らの団体組織としての”まちづくり活動”への参加機会が少ない。また最近の子育て中世代については子供の学習塾やスポーツクラブ、習い事の送り迎えなど保護者として時間を取られることもあり参加しづらい面がある。現在、設立準備会では小学校育成会や保育園の保護者会、子ども会などに声がけし若い人、特に女性の”まちづくり活動”への参加を呼び掛けている。
7	美川地区との交流をどのようにしているのか。	美川地域は、湊、美川、蝶屋の3地区であり、白山市合併以前の延長で3地区の交流は盛んである。子ども会、老人会、体協、地区社協、区長会、民生委員児童委員、公民館など各団体とも定例の連絡会議を持ち意見交換と合同事業を実施している。
8	モデル地区としての取り組み状況を地域住民にどのように知らせているのか。今まで何回ぐらい情報発信をしたのか。	設立準備検討会で地区主要団体に対して、市からの資料を併用しながら蝶屋地区の状況とまちづくり活動の必要性の説明会を行いモデル地区の申請への承認を得た。また協働推進課の各団体への共同説明会を4回にわたって実施した。10月の公民館だよりで設立準備会の立ち上げの報告を行った。モデル地区の活動報告はこれからである。
9	「住民の力だけで運営できるか不安」に対して、行政にどのような支援を望むのか。	まちづくり事業そのものに対する市の考え方を明確化していただきたい。やはり全貌が見えないので住民には自分たちでできるかどうかの不安があると思う。「まちづくり協議会」の設立後の最終の組織運営方法、資金面、人的支援など具体的に説明してほしい。特に人的な面では事務局業務は、パソコン操作の必要な面もあり、能力の高い市職員OB（再雇用者含む）の方々に、市の上層部より各地区のまちづくり活動に積極的な支援をしていただくよう呼びかけてほしい。

6 白峰地区

質問事項		回答
1	地域外の人たちとの連携はどのようなことか。また、地元の人たちにはどのように受け入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化が進む中、地域課題を地域の人達だけで解決することは困難になってきている。課題に対応するため大学や企業等と連携することが大切。 ・これらの活動は好意的に受けとめられている。
2	過疎化が進む中で今後一番の取り組みとして何を指すのか。人口減少対策は何か考えているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの維持と生活環境の維持が目標 ・人口減少対策の決め手は無いと思っています。地域と関わり合って関係人口を増やすことが必要と思っている。
3	若者を中心としたプロジェクトに、既存行事の廃止もあるのか。	今のところはありません。
4	過疎化、空き家、空き地等の対策はあるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化対策に決め手は無い。子供たちへの教育が重要。(地元を理解する。また、親の仕事を理解する。など) ・空き家対策は、空き家の流動化を促進させる仕組みが必要。
5	人口が少ない中でこのように取り組む活力の源はどこにあるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・白峰が好きだから ・活動が楽しいから
6	現在取り組んでいる地区一帯の「白峰学校」(ボーディングスクール?)の成果はどうか。	直ぐに成果が出るものでなく、5~10年と永い目で取り組んでいきたい。なお、少なくとも方向性は間違っていないと思っている。
7	NPOが長年活動してきた中で最も大きな問題点は何か	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の確保 ・安定的な財源の確保(補助金でなく、経済活動によってお金を回す仕組みを作ること)
8	情報共有など話し合う場をお願いしたい。(河内・鳥越地区)	承知しました。